

- 1 学 年 第全学年
- 2 教 科 数学科 「主体的に取り組む態度の評価についての一考察」
- 3 実践内容

主体的に取り組む態度

→ ① 粘り強く取り組む + ② 学習を調整する力

①は何となく理解できるが、問題は②の学習を調整する力

<学習を調整する力とは…>

ア 単元のゴールイメージを持っている → 教員が意図的に指導（単元の最初や途中）
生徒がそれを自覚し意識できているか

イ 自分の学習状況を把握 → 生徒

ウ ゴールイメージと自分の学習状況を客観的に捉え、次の学習の方向性を見出している → 生徒

評価資料1 振り返りシートの記述

学習内容のまとまりで振り返りシートを書かせる。

- 分かったこと・大切な考え方を記述 （イ 学習状況の把握）
- ◎ まだ分かっていないこと、知りたいことを記述（ウ 次の学習への方向性）

評価資料2 単元の最後に問題づくりをさせる（ア ゴールイメージがある）

今まで学んだ例題、問題を踏まえて自分で問題を作成してみる。

（仮説）『問題が作れる』ということは、『学習の調整力がある』のではないか。

ゴールイメージがないと問題はつukれない。

<具体的な評価の基準>

- 今まで学習した例題を利用して、数字だけ（図形だけ）変えているもの
→ B（単元の目標（ゴール）は理解できているが、形式的である。）
- ◎今まで学習した例題を利用しながら、ひと工夫されてあるもの
→ A（単元の目標（ゴール）が理解できているので、それが活用できる。）
- 今まで学習した例題を利用しても問題がつukれない。（白紙OR同じ問題）
→ C（単元の目標（ゴール）が理解できていない。
ゴールイメージがない。イメージはできるが、表現できない）

4 課題

評価資料1 振り返りシートについて

どこまでの記述ができていれば、**学習を調整する力**になるのか？基準をどうしたら良いか？ A評価、B評価、C評価の基準

評価資料2 問題づくりについて

問題づくりで主体的に取り組む態度を評価していることを伝えると別の問題集などから、予習し、自分が工夫して作成したようにすることも可能になる。

5 指導と評価の一体化にあたり ～授業改善の第一歩として意識していること～

教師の発問の精選と工夫

- ① 情報を与え過ぎないようにする（説明し過ぎない）
 - 考えさせる習慣を身につけさせ、自分で解決しなければいけないことを意識させる。
- ② なぜ？どうして？を繰り返し投げかける
 - 生徒自らのなぜ？どうして？が習慣化するのではないか？
（自問自答への導き）